

## E. 学習・研究環境の改善

### ⑤その他

#### ●事例7

##### 具体的に何を実施し、何が困難であったのか

当初計画予算がぎりぎりであったため、途中年度から資金的な困難が生じた。

##### 苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

特任教員は基本的にプログラム期間中は継続採用されることが前提であるにも関わらず、途中年度から大幅な予算削減があった。その結果、特任教員の給与を相当に削減したが、教育用実験経費などが十分ではなくなった。

##### どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

予め減額を見越して予算計画を立てて置くべきであった。特任教員はモラルハザードを起こすこと無く良く教育指導を継続したため、学生からは特に不満は出なかったが、すでに雇用した特任教員の給与については同経費を保証した上で、最低限の教育が行えるよう予算配分があれば良かった。